理念
支えあい・分かち合い

藤井脳神経外科病院
〒329-1105　栃木県宇都宮市中岡本町 461-1
電話：028-673-6211（代）
FAX：028-673-2115
E-Mail：fujiihp@apricot.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.fujiihp.or.jp/

藤井脳神経外科病院　地域連携ニュース

2022 年 4 月号

診療時間

○ 診察可　× 休診

診療時間		月	火	水	木	金	土
9:00～12:00 (受付 8:30～11:30)	初 診	○	○	○	○	○	○
	再 診	○	○	○	○	○	○
14:00～17:30 (受付 13:30～16:30)	初 診	○	○	×	○	○	×
	再 診	○	○	×	○	○	×
休診	水曜日･土曜日の午後、日曜日、祝日　*急患は24時間対応します。						

外来担当表

	月	火	水	木	金	土
午前	鈴木 博子	國峯 英男	國峯 英男	藤井 卓	國峯 英男	鈴木 博子 (第 1･3･5 週)
	* 淀縄 昌彦	鈴木 康隆	鈴木 康隆	鈴木 博子	鈴木 博子	* 坂本 和也 (第 2･4 週)
	* 坂本 和也	鈴木 博子	* 淺田 英穂 (第 1･2･4･5 週)	* 大橋 康弘	* 淀縄 昌彦	* 滑川 道人 (神経内科)
	* 交代制		* 自治医大	* 獨協医大		* 交代制
午後	* 淀縄 昌彦	* 獨協医大	休診	* 大橋 康弘	* 淀縄 昌彦	休診
	交代制			* 獨協医大		

上記の担当は、都合により変更となることがあります。

* 非常勤医師

陽春の候とは言え、なおも新型コロナウイルス感染症への注意が欠かせない日々です。
当院では、去る 3 月末に病院機能評価受審を終えました。3 度目の受審でしたが、前回からは 10 年の歳月を空けてしまいました。それでも職員たちは、第 3 者評価を受けることを良しとして、一致協力し自信を持って臨みました。感染対策にも留意しながらの準備、受審には労力を要しましたが、この中で組織としての成長を実感することができました。

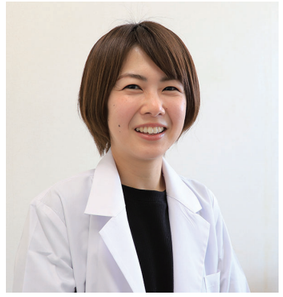
こうした基盤の上に、4 月から新しい仲間を増やすことができました。より充実した診療を展開できるものと存じます。今号では新入職員の紹介とリハビリテーション内容の一部紹介を企画しました。
どうぞよろしくお願いします。

理事長　藤井　卓

新任医師挨拶

川﨑　亜紀子

今年の春より、着任いたしました。専門は脳神経内科で、これまでは脳卒中や頭痛、認知症、パーキンソン病等の神経難病を診療しておりました。当院では主に回復期リハビリテーション病棟を担当させていただきます。急性期の治療を終えた患者さんが、安心してご自宅や施設等で暮らしていけるよう、それぞれの方に沿ったリハビリテーション治療を提供できるよう努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



西田　舞

４月より常勤医として着任しました西田舞です。専門は糖尿病、甲状腺疾患、内分泌疾患です。獨協医科大学病院・内分泌代謝内科の出身で、2018 年より今年３月まで NHO 宇都宮病院･糖尿病内分泌内科へ出向し勤務しておりました。当院では糖尿病をお持ちの患者さんの病棟管理を中心に担当いたします。近隣の先生方には引き続きお世話になりますが、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

脳神経外科医療のトピックス（21）

歩行神経筋電気刺激装置について

リハビリテーション室
大豆生田 仁・手塚 敦子・加藤 萌・丸山 慶久

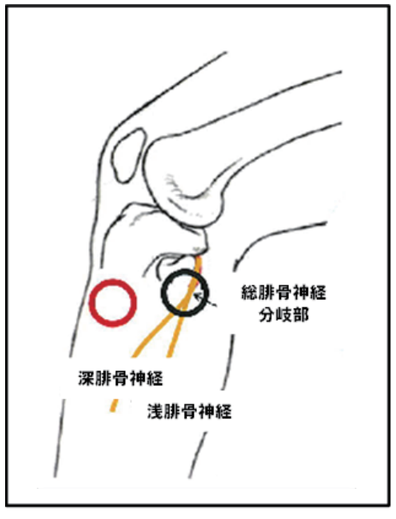
昨今、各分野で機械化や自動化が進み、医療分野においてもハイテク機械の導入が増えてきています。脳卒中疾患に対し、機能的電気刺激を用いた訓練は脳卒中ガイドラインでエビデンスグレード B と推奨されています。2020 年の診療報酬改定において計画的な使用と効果判定を行った患者に対し、運動量増加機器加算として保険点数がつくようになりました。

脳卒中により生じた下肢の麻痺は下記の一定のパターンを呈します。

片麻痺の回復段階を評価する Brunnstrom stage

stage Ⅰ	完全な麻痺状態から
stage Ⅱ	随意性の出現
stage Ⅲ	共同運動の出現
stage Ⅳ	共同運動からの分離
stage Ⅴ	さらに分離が進んだ状態
stage Ⅵ	ほぼ正常に近い協調運動

stage Ⅲ～Ⅳの脳卒中患者の歩行は麻痺側の踵接地が難しくなり、つま先あるいは足底全面で接地したり、振り出し時のつま先離れが悪く床との隙間が取りづらいため股関節を過度に曲げたり、分回したりする歩行形態をとります。装具を使用しないで歩くと、躓きやすく歩行効率も悪いため転倒の危険や疲れやすかったり、場合によっては反張膝を含む変形性関節症を来たす可能性もあります。



当院ではそのような麻痺を呈している患者さんに対して帝人ファーマ株式会社製の歩行神経筋電気刺激装置ウォークエイドを使用しています。
ウォークエイドは中枢神経障害による下垂足・尖足患者の歩行改善を目的とした機械です。腓骨神経と前脛骨筋筋腹に電気刺激を加えることで、足関節背屈や外返しの運動を補助し歩行の改善が図れます。

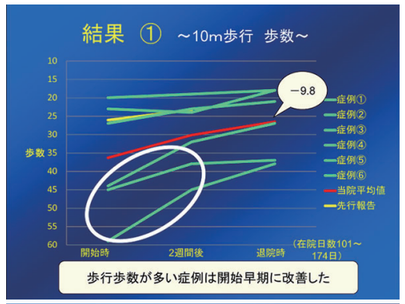
ウォークエイドのモード

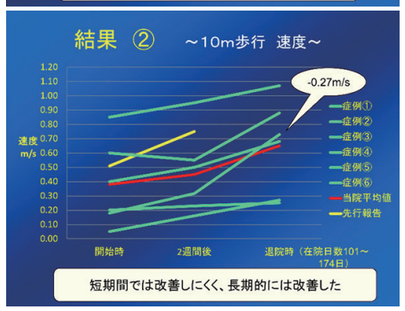
①エクササイズモード：　座位にて歩行前後の準備整理運動から使用できる

②ハンドスイッチモード：歩行中にセラピストのリモコン操作により遊脚期に足関節背屈を誘発することが可能

③傾斜センサーモード：　患者さん固有の歩行パラメーターを PC にて処理し本体に学習させることで、本体の傾斜センサーにより自動で電気刺激を加えて歩行練習を行うことが可能

当院では 2018 年に導入しており、2022 年 1 月現在で約 50 例に使用し、運動麻痺や歩行能力改善に対し一定の効果を得ております。また、患者さんからも使用感が良いという意見も多く頂いています。当院理学療法室では、2021 年日本臨床脳神経外科学会にてウォークエイド導入前後の身体機能・歩行能力改善についての研究発表を行いました。当院の回復期病棟に入棟している患者さんにウォークエイドを実施したことで、早期から歩幅の拡大を認めたり、長期的な使用により運動麻痺や筋緊張、歩行速度に改善が認められました。他施設の研究においても、麻痺側下肢機能や歩行機能の改善に対する報告やウォークエイドの使用により下肢の運動領域の脳血流量が増加したといった報告も多く挙がっています。





これから機械化や自動化が進むことで、患者さんが治療に対し多くの選択肢が得られるようになる半面、機器を使用するスタッフの知識、技量、判断がより問われる形になると考えます。今後も学び続ける姿勢を忘れずに、目の前の患者さんへ適したより良い医療を提供出来るように努めていきたいと思います。

お知らせ

次回は「頭部外傷について」の予定です。